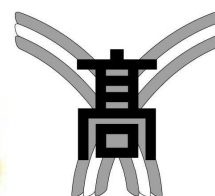


AL道中膝栗毛



【生徒対象授業評価アンケート結果】

中間試験から5月末にかけて、授業評価アンケートを実施していただきました。ご多用の中ありがとうございます。各教科ごとの結果については、教科主任会議で資料として提出させていただきます。

今回この通信でとりあげるのは、最後の質問「この授業で知的な刺激を受けて、家庭で自ら進んで調べ学習をしたことがあるか」です。入力までお願いしたのでお分かりだと思いますが、肯定的回答はあまり高いとは言えませんでした。

それでも「1又は2と回答した(調べたことがあると回答した)人は、どのような内容について調べたか、具体的に教えてください」という質問には、A3が埋まるほどの記述がありました。以下例です。

- ・物語の舞台となった場所の風景や建物の写真を閲覧した(国語)
- ・ニュースを見ることの楽しさを教えてもらってから、毎日スマホや新聞で見えるようになった(地歴公)
- ・ベクトルという言葉の意味を調べてみた(数学)
- ・寝る前に食べる夜食の影響について調べてみた(保健体育)
- ・保育に関することを自主的に調べるようになった(家庭科)
- ・ゼンタングル(注:パターンアートの描き方の一種)の作品について調べたりした(芸術)
- ・洋楽の歌詞で知らない単語があったら調べるようになった(英語)



「高等学校学習指導要領 改定のポイント」では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が必要ということが繰り返し述べられます。

例として取り上げたような「学校で学んだ知識を生活や社会につなげようとする姿勢」「授業で学んだことそのものに興味をもって、自分で関連することを調べる姿勢」は、立派な「主体的な学び」だと言えるはずです。授業の課題や予復習は言うまでもなく重要ですが、こういった「広がりのある学び」を行っている生徒がいると知ったとき、喜ばしく思う先生も多いのではないのでしょうか。

では生徒が「広がりのある学び」を行うために、教員はどのような働きかけができるのでしょうか。

期末考査に向けた時期ですが、ご自身の教える教科の内容と現代社会がどう結びついているのかを改めて考えたとき、生徒にどんなことが語れるのか、また語りたいのかは、それぞれお持ちだと思います。授業改善のヒントは、そういったところにもあるのかもしれない。

【本日の放課後、授業改善研修会を行います】

ご多用のところ申し訳ありませんが、15:50よりプレゼンテーションルームで行いますのでご参集ください。筆記用具のみご持参ください。ボールペン1本あれば十分です。